発行月：平成25年10月　家族新聞　第300号

環境教育「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
編集者：代表幹事 髙橋賢一
連絡先：市民活動支援センター
尾張旭市渋川町三丁目5番地7
（渋川福祉センター内）
TEL 0561-51-2878

平成25年10月4日(金)稲刈り

体験、経験は人の心と人格形成の基礎。

街の中にある150坪の小さな田合がある。カエル、カモ、タニシ、キジ、いろいろなムシ、鳥もくる。田圃はめずらしい、4年もやっていると、まわりの住民が協力して来れる。でもそれに甘えることはない。道路を清掃し、まちをきれいにすることがルールです。心の教育は難かしいが、又自分の教育でもある。

体験の風をおこそう
2013.10.04

▶稲刈りの後、束ねて天日干し準備。

いま文科省も合めて学校教育を見直ししなければならない。デジタル化教育では人間教育は不可能である。お米一粒つくるのに、田植から雑草取り、そして稲刈り、脱穀そして天日干しは二十日この二十日間の天日干しでお米のおいしさが違う、これが大切なのです。

▶半分は終りました。

「体験の風をおこす」ここでお米を育てることが体験になる。立派に天日干しが出来ました。ゴミは16袋子供頃を思い出してもこんな場面だったよ!!

▶右側小学校　左側高校生。十二月に料理教室で満腹なり